

授業科目	小児看護実習	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	田畑久江、浅利剛史、他		
概要	様々な健康レベルにある小児と家族を対象に、小児が健康に障害をもつことや入院すること、および集団保育をうけることによって小児とその家族に及ぼす影響を理解する。そして小児と家族に必要な看護活動を通して、小児と家族の看護に必要な基本的実践力を養う。実習場所は病院と保育所であり、具体的な活動として、病院においては新生児期～青年期にある入院患者 1 名以上を受け持ち、看護過程を展開する。そして保育所においては、保育士の取組みや集団における子どもの様子を見学し、集団保育に参加する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある小児と家族と援助関係を築くことができる。 2. 健康障害のある小児と家族に必要な看護を明らかにし、実施できる。 3. 小児を中心とする保健医療・福祉・教育チームの役割を説明できる。 4. 集団保育を受けることによる小児と家族への影響を説明できる。 5. 小児と家族に対して倫理的にかかわり、自己の行動を振り返ることができる。 6. 主体的に学習し、看護学生として責任ある行動をとることができる。 		
評価	病棟・保育所などでの実習状況(80%)、記録物等(20%)を総合した評価表に基づき目標到達度を判断する。評価表は開講時に提示する。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーションには必ず参加すること。 ・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は事前連絡する。 ・詳細は事前配布する「実習要項」で確認する。 		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p><病院実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1 名以上の小児を受け持ち、看護過程を展開する。 2. 4 名程度のグループに分かれ、小児病棟(成人混合病棟を含む)で原則 8 日間実習する。 3. 1 週目後半に 1 度 1 時間の予定で病棟カンファレンスを行う。そのほか毎日、ミニカンファレンスを行う。 4. 学習状況は毎日、所定の用紙に記録する。 5. 行動計画表と看護過程記録は毎日持参する。 6. 実習終了後、作成した書類を整理し、提出する。 <p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 集団保育に参加する。 <p><実習まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 学内カンファレンスを行う。
実習期間	<p>9 月下旬～12 月中旬まで。5 クールでローテーションする。</p> <p>1 クール 2 週間単位での実習。</p> <p>原則、1 週目～2 週目水曜日までは病院実習、2 週目木曜日は保育所実習、2 週目金曜日は学内での実習まとめとなる。</p>
実習場所	札幌医科大学附属病院、北海道立子ども総合医療・療育センター、JCHO 札幌北辰病院、社会医療法人北楡会 札幌北楡病院、札幌医科大学保育所、予定
実習時間	基本的に 9:00～16:00 である。ただし実習先や学習状況により変化する。

<p>実習内容</p>	<p><病院実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受持ちの小児・家族とのコミュニケーションを通して、援助関係を構築する。 2. 看護過程は小児の健康回復、成長発達の促進、及び小児・家族の安寧の3つの視点をもって展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・受持ちの小児と家族の情報収集、アセスメントを行い、看護診断/健康課題を明らかにする。 ・受持ちの小児と家族の看護計画を立案する。 ・受持ちの小児と家族への援助を指導の下に実施する。 ・受持ちの小児と家族に対する看護実践を振り返り、評価する。 3. 受持ちの小児と家族に係わる保健・医療・福祉・教育チームの役割機能を理解し、チームの一員として行動する。 4. 看護実践における倫理を常に意識して行動する。 <p><保育所実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 集団保育に参加する。 6. 学習した経験をレポートにまとめる。 <p><実習まとめ></p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 学内カンファレンスを行う。カンファレンスを通して個人の体験や気づきを共有し、看護実践に対する理解を深める。また、カンファレンスの企画運営することにより自主的な学習態度を養う。
-------------	---